

小鮎地区における“新しい学校づくり”の取組状況について

小鮎地区における“新しい学校づくり”に向けて、庁内に「小鮎の新しい学校づくり検討委員会」を設置し、新たな学校の施設の在り方や小中一貫教育の具体的な進め方などについて、ハード・ソフトの両面から総合的な検討を進めている。

また、検討においては、児童・生徒がより充実した学びを実現できる環境を整備するとともに、地域社会と一体となった教育の在り方を模索するため、適宜、小鮎地区の方々と情報を共有し、ご意見を伺いながら取り組んでいる。

1 新しい学校づくりに関する児童・生徒へのアンケートについて

新しい学校づくりに当たり、児童・生徒の意識を把握するため、小鮎中学校、小鮎小学校及び飯山小学校の児童・生徒を対象にアンケートを実施した。

実施結果については、別紙のとおり。

2 小鮎の新しい学校づくりに係るグループディスカッションについて

令和7年2月16日に令和6年度小鮎いどばた会（主催：小鮎いどばた会実行委員会、共催：小鮎小PTA、飯山小PTA、小鮎中CPTA、小鮎地区青少年健全育成会）が「小鮎地区における“新しい学校づくり”」をテーマに、開催され、生徒、児童・生徒保護者、学校教職員、地域の方々など42人が参加し、教育委員会から取組についての説明後、参加者によるグループディスカッションの実施・発表が行われた。

【グループディスカッションのテーマ】

- ①通学区域が広がることによる安全面や問題点の見直し。（見直しの重点箇所など）
- ②保護者や地域が望む新たな理想の学校！小中学校が隣接しているメリットをいかしたり、新たな取組や便利になったりすることなど、魅力ある学校を目指し考える。
- ③飯山小跡地の取扱いについて。避難場所、地域コミュニティの拠点など、地域目線で需要を考え、跡地の活用方法を検討する。

ディスカッション後の発表では、新しい学校づくりの取組について、次のとおり意見が出された。

【グループディスカッションの発表内容（抜粋）】

テーマ	意見
①通学の安全について	・小鮎川の橋の整備は重要。学校の統廃合を起点とした計画性を持った地域づくりをしていく ・スクールバスの発着場所を含めた学校づくり ・飯山地区から小鮎中学校へ行く際に県道を渡るのが危険である ・飯山小学校から小鮎中学校への通学路で、下校時の見守りや防犯、特に裏道を通る際の防犯灯の必要性を感じる
②新たな理想の学校について	・弾力性のある教育課程のもと、小・中学校でのクラブと部活動を融合させ、中学生が小学生に教える ・小・中学校の新しく建てる校舎は、公民館などのコミュニティの施設と複合化し、地域の人々が集まれる場としてほしい ・9年間を見通した教育課程のアドバンテージをいかし、受験・部活動・進学モデル校を目指す ・小学生(高学年)を部活動に巻き込むことは、小中一貫教育の魅力になると思う ・学年混合のチームをつくり運動会を行う ・小中一貫校の整備 ・地域のコミュニティ施設も一か所に集める ・新たな学校の名前も考えたい
③学校跡地について	・バスの停留所 ・食堂や居場所づくり ・防災面も考慮しながら人を呼び込める施設を整備する（道の駅、スポーツ施設、宿泊施設、フリースクール、老人ホーム、図書館、コワーキングスペースなど）

3 令和7年度の取組（予定）について

- (1) 庁内検討組織における整理・検討
- (2) 小中学校通学区区域再編成委員会の下部組織として学校や地域団体の関係者等で構成する部会を設置し、具体的な内容を審議
- (3) チラシ等による周知（令和7年4月に「小鮎の新しい学校づくり通信第2号」を発行見込み）